

令和3年度 全国キャリア教育・就職ガイダンス  
外国人留学生のキャリア教育・就職支援についてのセッション

- ・テーマ：「元留学生による就職活動体験談」
- ・講演者：上智大学 経済学部経済学科卒業生 兪 蓮清（ユ レンセイ）氏

---

私は、上智大学経済学部経済学科4年の兪 蓮清です。出身は中国の上海です。電気機器メーカーから内定を獲得し2021年4月から勤務する予定です。

**質問1. 日本の就職活動の活動内容を教えてください。**

エントリーした企業は30社で、面接に進んだ企業は15社、最終的に5社から内定をいただきました。

**質問2. 就職活動の準備はいつからどのように行いましたか？**

2019年5月からインターンシップの合同説明会などに参加しました。そして、大学のキャリアデザイン演習という授業で、就職活動の全体の流れを把握し、自己分析と業界・企業研究を始めました。8月～11月にインターンシップに参加しました。また、後期の授業で、エントリーシート（以下ES）を作成し、SPI対策、グループディスカッションや面接の練習をしました。

**質問3. 就職活動で一番苦労したことは何ですか？**

業界研究や企業研究などが一番苦労しました。業界ごとへの理解が足りないので、自分がどの業界に行きたいのなかなか決められませんでした。一方、業界研究で文字数が稼げなかったら、ESを書く際も苦労します。ですので、15社ぐらいのインターンシップに行って、実際に異なる業界の業務の模擬体験をしながら、業界研究をしました。また、日本の会社についても全く分からないため、企業研究についてはインターネットで調べたり、会社説明会に行ったりしてかなり時間をかけました。

**質問4. 日本の就職活動で留学生が理解しづらい点や適応しづらい点は何だと思いますか？**

日本の就職活動で留学生が理解しづらい点は2つあると思います。1つ目は、就職活動の流れです。自分の国では、大学3年生の時に長期のインターンシップに参加しなければなりません。そして、正式な就職活動は卒業してから始めます。一方、日本では大学生3年生から自己分析や短期インターンシップなど就職活動の準備を始め、卒業までに内定を獲得します。2つ目は、ESを書くことです。自分の国では、学歴重視のため、履歴書だけを提出すればいいです。しかし、日本では、頑張ったことなどのエピソードを考えなければなりません。

**質問 5. 大学の支援や授業などで利用したサービスと役に立った点について教えてください。**

大学の留学生を対象としたキャリアデザイン演習という授業では、自己分析、ES の書き方、業界・企業研究や面接のマナーなど就職活動について全般的に学びました。特に ES の内容をチェックしてもらったり、インターンシップを紹介してもらったりしたことが、非常に役に立ちました。そして、大手企業の社員さんが講師となる授業では、個人のキャリア形成などについてディスカッションし、また就職活動に関する質問をしたりすることができたため、役に立ちました。

**質問 6. 就職活動において新型コロナウイルス感染症の影響はありましたか？あった場合はどんなことですか？**

良い影響と悪い影響が両方あったと思います。良い影響は、面接などがほとんどウェブで行われたため、交通費や時間などが節約できたことです。一方、悪い影響は、グループディスカッションの選考もウェブで行われて、現場での選考と比べて待ち時間などで雑談することができなくなったため、グループ内の距離感があって選考が難しくなったと感じたことです。さらに、通信トラブルが起きる可能性があり、選考に影響するかもしれませんでした。また、例年より採用人数が減少した企業もあり、競争が激しくなることもありました。

**質問 7. 内定を獲得できた成功の要因は何だと思いますか？**

就職活動の成功の要因は2つあると思います。1つ目は準備を始めたのが他の学生より早かったことです。早く準備をすることにより、自己分析をして ES の内容を考えることも、SPI の練習をするのも、十分な時間を作ることが出来ました。そして、2つ目は選考を受ける企業が多かったことです。最初に受けた企業に落ちても、練習することができたと思えました。

**質問 8. 大学で就職活動に対してあったらよい支援はどんなものですか？**

同じ留学生の先輩の就職活動体験談を聞き、質問ができる機会があったらよいと思います。そして、留学生向けのインターンシップの紹介などがあればよいと思います。

(了)